

紫友

SHIYU

同志社校友会 北海道支部機関誌 再刊第2号



校友会北海道支部総会の開催を祝して

同志社大学 学長 村田 晃嗣



校友会北海道支部総会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申しあげます。平素は、本学に対しましてご厚情、ご支援を賜わり、誠にありがとうございました。教職員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

同志社大学は、1875年に同志社英学校として誕生しました。以来、校祖新島襄が『同志社大学設立の旨意』で宣言しているとおり、自治自立の精神に富み、自由を尊び、良心を手腕に運用する力強い人物の輩出を願い、教育研究活動を展開してまいりました。そして今、より個性的で特色ある私学であり続けるために、時代に即応した様々な改革に取り組んでいます。

国際主義を建学の精神としている本学にとって、国際交流、国際化は現在取組むべき重要な課題です。2009年度に英語のみで学位が取得できるビジネス研究科グローバルMBAコースを、2010年度にはグローバル・スタディーズ研究科を、理工学研究科及び生命医科学研究科に「国際科学技術コース」を開設、更に2011年度には文系学部を横断する国際教育インスティテュートを開設するとともに外国語の実践的・実用的運用能力に卓越した人材を育成するグローバル・コミュニケーション学部を開設いたしました。そして

校友会世界中から受け入れ、また、世界中に派遣する魅力ある知の国際化拠点「同志社大学」の形成に向けて、積極的な活動を行っています。
また日本には780もの大学がありますが、その中でも同志社大学はまことにユニークであり特徴ある存在だと考えています。同志社大学には三つの特徴があります。第一は、京都に位置しています。全国の大学生のおよそ4割が首都圏の大学で学んでおり、高等教育の世界は首都集中といえます。もちろん、首都圏で学ぶことのメリットも大きいでしょうが、首都圏以外の多様な視点から社会を考察することは実際に重要です。特に、学生が伝統と革新の共存する京都で青春時代を過ごすことの意義は、決して小さくありません。

第二に、同志社は私学だということです。本日お集まりの皆様が学ばれました同志社大学には、創立者・新島襄の教育理念が生き続けています。明治政府がいわゆる和魂洋才で、日本の近代化のために西洋の技術や制度だけを模倣しようとした折に、新島は西洋の技術や制度を支える市民社会の重要性を訴え、その市民社会を構成する賢明で自立的な市民、つまり良心を手腕に運用する人物」を育成しようとしたのです。幕末に国禁を犯して単身アメリカに渡り10年余をそこで過ごした新島だからこそその発想であります。本学学生には、ぜひ新島について知つてもらいたいと考えています。新

島について知ることは、近代の日本、同志社、そして、われわれ自身の来歴について知ることでもあるからです。

第三は、同志社がキリスト教を教学の基盤に据えていることです。明治以来今日に至るまで、日本の人口に占めます。キリスト教徒の割合はわずか1%にすぎません。他方、国際社会ではキリスト教について一定の理解や知識を持つ教人口は22億人にも上ります。キリスト教の視点から社会や物事を考察し、キリスト教について一定の理解や知識を有していることは、多様性と国際性の両方に通じるのです。同志社の徽章、三つ葉のクローバーは知徳体を表していますが、同時に、京都、私学、キリスト教という同志社の三つの特徴に見立てることもできるかもしれません。そして、この共通するものは、多様性であり、寛容の精神であり、自立心です。これらなしに21世紀のグローバル社会をクリエイティブに生き抜くことはできません。同志社は伝統ある学校ですが、その特徴や教育目標はきわめて今日的でもあります。



今年の校友会活動に思う

支部長 山川 寛之（昭和四十四年経済学部卒）



やつぱり同志社つて最高！

琵琶 博之（平成七年法学部卒）

書店には新島八重に関する本が所狭しと何冊も並んでいるし、今年は同志社イヤーである。勿論、NHK大河ドラマで校祖、新島襄夫人八重がヒロインの“八重の桜”が一年を通して毎週放送されているからのことであるが。

先日、東北地方応援、就中、福島県民頑張れの意味を込めて初めて、会津若松市の総会に参加させて頂いた。新島夫妻に縁の会津若松教会で、お祈りから始まる

本格的な総会であり、当地のオール同志社懇親会とは全く様子も雰囲気も違い、ある種厳粛で新鮮な感じを覚えた。否、学生時代のチャペルアワーを思い出したと言うべきか。総会後の懇親会では八重のご縁から会津若松立教会の皆様も加わり、実に楽しいひと時を過ぎさせて頂いた。

特に会津若松市商工会議所会頭と同席になり、札幌の琴似神社には松平容保が祀られていることを教えられ、一層の地縁性を強く感じたものである。かつて西サッポロビール会でご一緒した菅原宮司様と直接のご縁があつたことから、急に話が盛り上がりつつたことを思い出す。

が届いた。流石一流の経済人だと感じさせることも並んでいたことに、即ち返礼のお手紙をさせて頂いた。

帰途の福島空港は驚いたことに、何から何まで八重一色なのである。八重の菓子、チョコレート、八重と命名された清酒や焼酎、八重の名入り小物の数々、全ての観光御土産が八重さん因んだものになつていて、周りを見渡すとあちらこちらに貼つてあるポスターも八重に扮する綾瀬はるかが会津若松へようこそ、福島へようこそと歓迎し、お迎えしている。とても心地良く温かな気持ちになつてしまふ。

その経済効果たるや、きっと〇〇億円で、福島県を元気に、県民を元気づけているに違いない。その昔北海道支部の重鎮ひげの故藤井清先輩の“八重子刀自の棺を担いで若王子まで登つたんだよ”と言われたお元気な頃のお姿をついといい思い出しながら機中の人となつた。

今日まで同志社校友会北海道支部には永い歴史があり、沢山の先輩が築いてこられた功績がある。それ等を後輩達にしつかり引き継いで行きたいという思いを新たにしている。

お米と温泉が有名な蘭越町。その町で町議会議員をしています。仕事の関係で、札幌に行く機会が増え、札幌でも居場所を作りたいなあと考えていました。

”ニセコエリアでスローライフを”と思い、大阪から移住してきて2年半。親戚や友達がいるわけでもない。中学時代は新聞配達に明け暮れ、高校時代は勉強ができます、浪人して苦労の末、同志社に入学。だから、大学時代は思いつきりエンジョイして、いい思い出ばかり。そんな同志社ラブな僕が、居場所＝同志社と考えるのは、ごくごく自然の流れだつたのです。

今年は、NHK大河ドラマ「八重の桜」がスタート。同志社イヤーですね。そんな年の機関紙「紫友」に寄稿の機会を与えて頂いて本当に感謝しています。

「やつぱり同志社つて最高！」って思いながら、カレッジソングを口ずさんでいる。めちゃ活動が充実していて、写真を見て、ワイヤーと楽しそう。隔月毎の例会、キャンプやスキー、他大学とのゴルフ交流など。

楽しみにしながら、すぐに例会に参加。初めて会つても、同志社の先輩や後輩との出会いに対する丁寧なお礼状

Doshisha College Song

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify: one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine
Tho' through the world we wander
far and wide,
Still in our hearts thy precepts
shall abide !



ボテンシャルの高い 北海道に期待を寄せて

町口 正人（昭和四十八年商学部卒）

前略、同志社校友会の皆様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私事、1973年同志社卒業と同時にキヤノン㈱に入社し、日本国内10箇所の都道府県を転勤し、1996年～5年間札幌支店に赴任しておりました。その頃に同志社校友会北海道支部があることを知つておれば、もつと校友会にご支援できることと反省をしております。

その後、2001年から仙台支店、東京本社と単身赴任し、2006年に会社を早期退社し、親戚・縁者もいない札幌を終の棲家とすることに決めました。

皆さん、北海道に住まれてのご印象は如何でしようか？同志社校友会のメンバーの中には関西から北海道に住み着いた方の印象を聞くと、殆どの方が異口同音に広い大地と自然環境、ゆつたりとした生活、スキー・ゴルフ・温泉の癒し等々気分がリフレッシュされると言います。

しかし、商売となると別問題です。道外から来た者として北海道の印象を辛口で述べさせて頂くと、「企業の発展・成長のポテンシャルがありながら挑戦しない。変革を嫌う。リスクを避ける。チャンスがあるのになあ」と痛感します。

私の体験として、キヤノン時代の5年間は北海道中の事務機ディーラーさんとセールスの仕事を一緒にし、親睦を図りましたが、「競争を避け、勝つことへの意欲・執念が感じられない」という印象です。例えば、販売では顧客にもう一步突つ込んだクロージングをして欲しいのに営業マンは「顧客の反応が悪い」「買う気がなさそうだ」と顧客の反応を素直に受け取ってしまいます。営業は断られるところからのスタートであり、何度も足繁く通うことが基本です。もし、私が顧客の立場ですと、商談時にもつとクロージングしてくれ、条件次第では買うのに「突つ込んで来い」と言いたくなる場面が多くあります。顧客に素直に「買つてください！」「いくらでしたら買つてくれますか？」と言えないセールスの多さに歯がゆくなりますが、逆に顧客の立場になれば、値切り交渉は「恥ずかしくて出来ない」という人が多いようです。

関西人の商売での特徴「なんぼにしてくれる？まけてーな？↓あほ言いな。元まあ、ぼちぼちですか！」儲かりまつか？↓まあ、ぼちぼちですか！」懐かしい会話ですが、しかし、北海道ではタブーで違

和感がある会話のようです。もう少し、気楽に売り買いを楽しんでみてはいかがでしょうか？その効果として売り手が買い手の情報が取れ、顧客動向、販売促進、ひいてはマーケティングにも応用できるかも知れません。会社経営の鉄則は「売上を上げて、経費を抑える」と当たり前のことを、京セラの名誉会長、後のJAL再生に辣腕を振るった稻盛和夫さんも再三唱えておられます。売れるチャンス、儲けるきっかけを逃すリスクは大きいようです。

また私の印象として、北海道の殆どの企業・業界は一体となり、協業体制を組んで皆で仲良くやつていてこう式の印象が強く感じられます。かつての北海道開拓使、北海道開発庁の名残りがあるようで、官公庁主導や公共投資依存型風土等が影響しているようです。太平洋自由貿易協定)が本格的に交渉されようとしており、北海道農水産業にとつての大きな試練と変革の流れが来ており、もう一度原点、ゼロベー

スに立ち返り北海道の強みを再確認し、ビジネスチャンスを活かした差別的競争優位性を構築する機会かと思われます。私事、人材育成、経営コンサルティングを通じて北海道企業の活性化に貢献できるよう努力していく所存です。

特に北海道の産業構造としての一次産業、農業は全産業生産金額に対し全国の12%（全国1位）、水産業19%（同1位）が特に高く、製造業等の二次産業は同1.8%（全国20位）と低いようです。つまり、農産物・水産物の原材料供給基地であり、製造・加工の付加価値をつけないままの産業構造です。具体的な事例としては、福岡名産といわれる「博多明太子」はご当地での調達は全く無いのにご当地名産となっています。実にもつたない事業です。



以上。

北海道の魅力と開拓精神

八木由起子（平成二年文学部卒）

2013年は大河ドラマ「八重の桜」が始まり、同志社大学の卒業生として毎週楽しみに拝見しています。思えば1986年に入学して以来、新島八重はもちろん新島裏のことさえろくに知らず、このドラマであらためて学ばせていただいているところです。

1992年、文学部社会学科新聞学（現・社会学科メディア学）を卒業し、バブル景気にあおられるように東京の出版社に就職。15年つとめてのち、縁あって北海道へ移住。現在は、札幌で『北海道生活』という雑誌の編集長をしています。石川県金沢市出身、いわば小京都から京都、そして東京都と韻を踏むかのように移り住んできた、北海道についてはまるで門外漢。もうひとつ、札幌のタウン誌『ボロコ』の編集長も兼務しているのですが、こちらは創刊以来、札幌に精通したスタッフたちがつくっているので、私は責任者という立場に過ぎません。対して『北海道生活』は、北海道全域の魅力を伝える全国誌であり、札幌以外のつてがほとんどない会社にあって、まさにゼロからのスタートでした。

札幌の他の地域について誰も知らないまましてや北海道は広大な地。それな



『北海道生活』を通して各地で見たもの

のは、驚きと感動の連続でした。知床のような手つかずの自然はもちろん、名もない地の田園風景やまつすぐな道、札幌時計台の歴史にいたるまで、すべてが新鮮な発見でした。そのひとつひとつを集め、掘り下げ、つながりを見つけ、編み出していく作業は産みの苦しみです。しかし産まれた雑誌を通して、道外の読者のみなす地元の人々にまで「魅力を再発見できた」と感謝の声をいただき励まされています。

ら、自分の目で見てみようと北海道各地を訪ねました。北海道は14の総合振興局と振興局に区切られているため、多忙な毎日の合間を縫うように、すべて周るのに3年間かかりました。

いる身としては、なんでもつたないのだろうと思ってしまいます。

北海道出身の人と話していると、言葉の端々に「ない」と済ませてしまう人が多いことに気づきます。「お金がない」と言いますが、旭山動物園は廃園の危機に追い込まれるほどの経営難からよみがえっています。「歴史がない」と言いますが、アイヌという先住民族の歴史、それから開拓以降の独自の歴史があります。

ゲルメもしかり。北海道は「米が美味しい」と言われていたのに、生産者さんの努力で北海道米は全国のトップクラスになりました。「酒が美味しい」と言っていたのに、道産の酒米やブドウがレベルアップした現在、北海道産の日本酒やワインは道外でも高い評価を受けるようになっています。「食材がよすぎて、料理人が育たない」と言う人もいますが、意識の高い料理人さんが北海道の良質な食材を見事な美食に作り上げ、それを食べに本州から来る人も

この仕事を通じて、札幌市役所や道庁で観光について審議する機会を得るようになりました。北海道や札幌は道外や海外からの人気が非常に高いのに、こちらからはどう魅力を発信したらいいのかわからない。北海道グルメは全国の物産展でもドル箱企画になるほど評判なのに、まちで観光客に美味しい店を訪ねられても答えられない人が多い。札幌の最新グルメを『ポロコ』で、北海道の上質な情報を『北海道生活』で紹介している身としては、なんでもつたないの

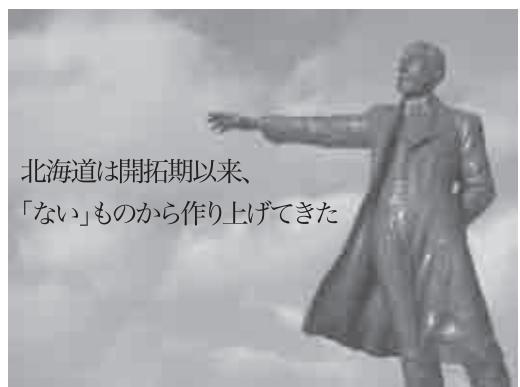
だらうと思ってしまいます。

北海道出身の人と話していると、言葉の端々に「ない」と済ませてしまふ人が多いことに気づきます。「お金がない」と言いますが、旭山動物園は廃園の危機に追い込まれるほどの経営難からよみがえっています。「歴史がない」と言いますが、アイヌという先住民族の歴史、それから開拓以降の独自の歴史があります。

それは、北海道の開拓期を生き抜いた先達のフロンティアスピリットにも、艱難辛苦を超えて同志社大学を創立した新島襄の精神にもつながるのではない

問題があるようです。

否定や批判からは何も産まれません。「ない」ではなく「ある」ものに注目する、それでもないのなら、つくればいい。のでしようか。それを見つめることなく「ない」と言い捨ててしまうことにこそ問題があるようです。



北海道は開拓期以来、「ない」ものから作り上げてきた

いるほどです。

開拓期以来、「ない」ものから作り上げてきたフロンティアスピリットは、タ

ブーのない大陸的な北海道だからこそ培われたものだつたはずではなかつたのでしょうか。それを見つめることなく

人物点描・新島襄（そのII）

異才・異能の人——山本覚馬 小論

常任相談役 武谷 洋三（昭和四十四年法学部卒）

『わが同志社にとつて、新島先生が「太陽」であつたといたしますならば、山本覚馬先生は、暗い夜を照らしてくれる「月」であります。』

これは明治二十五年（一八九二）、山本覚馬が六十四歳のまさに波瀾万丈、苛烈きわまる生涯を閉じた時の同志社政法学校（同志社大学の前身）校長・小崎弘道の告別式冒頭の言葉である。

明治八年（一八七五）、「官許同志社英学校」が、教師は新島とデイヴィスの二人、生徒はわずか八人で囁々の声をあげるまでの草創期の「冬の暗い試練の時（新島襄）」は、その悪戦苦闘の日々を知れば知るほど胸が熱くなる。そんな時、煌々と行く手を照らし、難路を切り拓く道筋をつけたのが山本覚馬だった。

覚馬なくして同志社の創建はありえなかつた。この点はいくら強調しても強調し過ぎるということはない。蛇足ながら覚馬の実妹で会津の希代の女丈夫・山本八重（よしだい）が、新島襄夫人その人であることはことさら言うまでもない。

NHK大河ドラマ『八重の桜』が目下放映中だが、今までのところ山本覚馬に相当ウエートを割いている。我々が「新島襄の肖像」をより深く捉える上では、

新島の背後にあつて切つても切れぬに光を当てくれるのは同志社人としては喜ばしい。

驚嘆すべき覚馬『管見』の先見性

ここで一応のプロフィールを粗描しておくる必要があろう。覚馬は会津藩兵学指南の家に生まれ（文政二年—一八二八）、二十五歳で江戸に出て蘭学を学び佐久間象山、勝海舟と交流、洋式砲術を江川担当に学ぶとき黒船に遭遇。その後京都守護職になつた藩主に従つて上洛。禁門の変で失明後、鳥羽・伏見の戦いに巻きこまれ薩摩藩邸内の獄中に。その際先見性に富んだ新しい国づくりの建白書『管見』を盲目故に口述筆記で表わし、岩倉具視、西郷隆盛、小松帶刀らの注目を引く。維新ののち京都府顧問となり、全盲で脊髄損傷による歩行不能という二重の障害を負いながら、禁門の変でかつて廃墟に加担した（三万八千戸の家屋が焼失、京都の町の六割が荒廃）古都の復興のため

〈平均法〉〈醸酒法〉〈条約〉〈軍艦国律〉〈港制〉〈救民〉〈髪制〉〈変仏法〉〈商律〉〈時法〉〈歴法〉〈官位〉といつた項目がつづき、それぞれの項目について、具体的な数字に裏付けられた、独創的でプログラマティック（実用的）な「実践論」がこと細かに論述されている。

これを覚馬は、獄中にあつて一切の参考書もメモもなく、持病のリューマチの痛みに耐え、ただただ心眼に映るまま、まるで口から糸を引くように口述に継ぐ口述を以て昼夜を問わなかつたのである。

しかもその内容が当時いかに先駆的、開明的であつたか。「驚嘆に値する」とはのことだ。

一例をあげれば〈文学〉では、『前略』日本、支那は婦人に学問を教えず。いまより以後、男子と同じく学ばすべし。（なぜなら童子は婦人と関わること多けれど、婦人“賢”にして教わると愚（にじて育つるとは、その相違はなはだし。（後略）』といつた具合で、こうした「平等観」は新島のそれと、そもそも一人がめぐりあう前から通底していたと言つてよい。

またいかに具体的、実用的だったかの例を一二あげれば、〈商律〉の項では、貿易に伴う破船等の事故に対処するため、損害保険、生命保険制度の必要性を説いているし、〈衣食〉の項では、『身体強健、精神充実のために牛豚を食い、毛織物を着よ』といった具合である。

さてその『管見』だが、いわば近代日本の具体的な設計図“だといつていい。

その二十二項目、一万字に及ぶ意見書には、ガツと項目だけを拾つてみても〈政体〉〈議事院〉〈学校〉〈女学〉〈国体〉等、三権分立の思想や斬新な教育制度、税負担の公平化、職業選択の自由などといつた時代に先駆けた卓説が精細に展開されあと、〈建国術〉〈製鉄法〉〈貨幣〉〈衣食〉に光を当てくれるのは同志社人として喜ばしい。

維新の元勲をうならせた覚馬の経緯

こうした山本覚馬の「進取の気象（性）」と「開明思想」は、戦災禁門の変と東京への遷都でさびれ果てた京都の復興再建にいかんなく発揮された。文明開化期における“和魂洋才”を地で行つた典型例であろう。

実際ざつと一瞥しても、洋式工業による殖産興業策の旗を高々と掲げ、わずか数年を経ずして勧業場、舎密局（西洋式理化學工場）、製革場、養蚕場、牧畜場などを矢継ぎ早やに開設。次いで製鉄、製紙、製薬、写真、電鉄、電信、印刷等の事業の布石を着々と打ち、系統的に実践し実現していく。

覚馬の経緯は教育、文化の面でいつそう際立つた先見性を見せる。日本で最初に小学校ができたのも京都なら、中学校の誕生も京都が一番早かつた。ドイツ語学校、フランス語学校、英学校、そして医学校（病院）開校も実際に明治八年までに相次ぎ完了している。

とりわけ注目されるのが、明治五年

（一八七二）開設された「女紅場」である。英語と和洋女紅（裁縫や養蚕、機織りを初めとす

る実用的な手芸、茶道、書道、華道、絵画、礼儀作法等々を教え、これが日本の公立女学校の嚆矢となる。これすべて『管見』の実践であり、かつ見落とせないのは、これら一連の殖産興業策がいずれも維新中央政府のモデルとなつてゐることだ。

おそらく『管見』は、明治維新の立役者・実力者らに西郷隆盛らを通して広く知れわたつていたに違いない。

というのも、明治元年（一八六八）嚴冬、仙台藩邸内の病院で病を養つていた覚馬を維新の元勲・岩倉具視が訪ね、新政府への仕官を熱心に勧めている事実があるからだ。しかしながら覚馬は、故国を“減藩”に追い込み、肉親を筆舌に尽くせぬ苦難のどん底に叩き込んだ新政府に仕えることなど、到底できなかつた。

だが京都の公郷・岩倉は覚馬の異才を惜しみ、今度は思い出ぶかい元の京都守護職邸に置かれていた（軍務官役所）へ出仕を勧めた。明治二年三月中旬のことである。

仕事の中身は、陸海軍の基本問題について教官の一人として教鞭をとるかたわら、四月に中央政府から京都府へ移管替えになる「勸業事業の顧問」を務めることだつた。禁門の変で自らも手を染めて焼野原にしてしまつた京都への強い思い。無辜の民を塗炭の苦しみに追いやつた自責の念。会津人・覚馬が京都を第二の故郷と思いを定め、その復興と『管見』一、京都版の実現のために身を献げようと決意を固めたのは、自然の成り行きだつた。

新島と覚馬の縁は“神の恩寵”

新島が覚馬と初めて相対したのは明治八年四月のことだが、紹介者には諸説がある。木戸孝允、勝海舟——それぞれもつともな必然性があるのだが、おそらく時の京都府大参事・横村正直（のちに知事）と、当時京都に仮住まいをしていた宣教師・ゴルドンだつたと見るのがごく自然だ。

新島と木戸とは明治五年（一八七二）、木戸が欧米遣外使節団の重鎮の一人として滞米中に新島とワシントンで邂逅以来、お互いの「教育立國」論で共鳴一致し、爾來、木戸の新島に注いだ有形無形の、それも木戸の一方的な「無償の支援と助力」は並々ならぬものがあつた。

その木戸の「懐刀」と自他共に任じていたのが横村大参事である。そしてその横村が、「山本先生、山本先生」と私淑し、京都府の「政策顧問」に登用したのがほどなくならぬ覚馬だつた。

もう一つ伏線がある。新島と旧知のゴルドンと覚馬との交誼についてである。横村と同じく眼疾に苦しんでいたゴルドンは、漢文で書かれた『天道溯源』というキリスト教入門書ともいうべき三巻

本を覚馬にすでに贈つていた。一読、覚馬は魂を搖さぶられるほどの衝撃を受けた。

そこには「靈魂無ければ、耳目手足具備すといえども、即ち皆、廢れて用なし、必ずすみやかに朽るにいたる。（中略）故に、たとえ手を瘋る、足を跛し、目を盲し、耳を聾すとも、而も思忖の諸事に於て、初めより少しも捐する無し」と書かれてあつた。

靈魂を以て真理に対する心眼の“開眼”であつた。

こうした神の恩寵、天の配剤によつて、新島と覚馬は初対面早々に肝胆相照らした。『管見』の教育立國論と『天道溯源』のキリスト教こそ、一人を結ぶ強烈な触媒だつたのである。終生、固い絆で貫した同志がここに誕生した。

覚馬は初対面のその日に、自分所有の土地五千八百坪の提供を申し出している。同志社の本拠地——現在の今出川キャンパスである。奇しくもそこは、かつて覚馬が幽閉され『管見』著作に心血を注いだ旧薩摩藩邸であつた。

京都にキリスト教主義の大学を設立するという途方もなく壮大な新島の企ては、幾重にも困難な壁に直面し、頓挫・挫折の連續で難航を極めた。そもそもキリスト教令を解いたのは明治六年。しかし教師に外国人宣教師を雇い入れ聖書を教えるという。言うまでもなく、仏教の中心地京都には当時三千五百の寺院と八千人の僧侶がいる上、二千五百の神社があり、それぞれ神官もいる。ヤソ

教“への生理的反発がどれほど激烈だったか、想像を絶するものがあろう。事実、志社英学校開校（志社大学の前身）（明治二十五年）に至る、新島と覚馬の艱難辛苦の道のりは、イバラの道などという生易しい言葉で語れるものでは決してない。だが二人は決して屈しなかつた。

「いしかね（石金）も通れかしとて一筋に射る矢にこむる大丈夫の意地」
〔真理は寒梅の似し 敢えて風雪を侵して開く〕
（新島襄）

帰国直後の新島は、ほとんど無名の存在だつた。その彼がキリスト教に対する絶大な信用と衆望、政官財にわたる勢力と影響力を抜きには到底不可能だつた。だが同時に、新島の満身これ涙、満身この熱が、会う人会う人を魅きつけてやまなかつた——その偉大な“磁力”抜きでも不可能だつたと断言していい。

その端的な証は、徒手空拳、熱誠と気迫に満ちた“人間力”のみで巨額の開校資金を集めしたことでも明らかだ。

新島襄先生は「世界の百聖人」の一人、とアメリカでは称揚されている事実に、我々同志社人は折節、思いを致し、誇りと矜持を新たにすべきだろう。

あなたの聖地「同志社・京都」巡礼の誘い 田中 憲次（昭和四十五年法学部卒）

“青春”と呼ぶにふさわしい二十歳前後の4年の春夏秋冬を、世界中の憧れの地「京都」で暮らし、学びの場として定め、なかでもその地の近代化、学術、商工業の発展に絶大なる寄与をし続ける「同志社」において学び修められた皆様、是非ともあなたの聖地「同志社・京都」に今一度お出掛けください。

T Vで放映される“京都物”や書店に並べられた、あらゆる角度から書かれた幾多の“京都本”からでも一端はうかがい知ることはできましょう。しかしながら、それらからは、あなたの聖地「同志社・京都」を見いだすことは難しいのではないかでしょうか。学生時代に心に焼き付けたあなたが主人公のディープなシーンはあなただけの大切な財産です。それを再生できるのは、その現場です。

京の大路はもとより小路沿いのいぶし銀屋根の町家までがビルディング化が進み、同志社の学生・生徒が闊歩する烏丸今出川、今出川河原町界隈の様相も時流と合わせて変貌してしまいました。また、我が同志社も教育・研究環境の充実化に伴い、重要文化財指定の校舎以外にはレンガ造りの風情を残しつつも建て替えもありました。

しかし、その「京都」「同志社」に脈々と流れる歴史の積み重ねには、その地を愛する者にはことのほか温かく受け入れる人情がある街です。あなたが寝食をとった下宿が、友と裸の付き合いをした銭湯、お茶やお花のお稽古に通ったお師匠さんの家が過ぎゆく時とともに失われても、その街角はあなたを素直に迎えてくれることでしょう。哀歎交差するあなたの生きた軌跡が残る場です。すなわちあなたの聖地です。

ここは乾坤一擲、精神の拠り所を求める巡礼意識もし。「八重の桜」の波に乘じての物見遊山気分もまたよし。あなたの精神（こころ）に刻んだ同志社は、“裏門の誇り”積み重ねたあなたの訪れを今か今かと待っています。最後に、先般10数年ぶりに入洛したという友人がきっぱり言い切った言葉は「何よりも同志社はいい」と。



2013年度 年間活動予定&報告

幹事長 草野賀文

1月	24日	新年会 お刺身居酒屋瑠玖にて開催 18名出席
2月	10日	スキーパー練習会 朝里川温泉スキー場 10名参加
3月	15日	来シーズンはニセコ合宿敢行 幹事 佐藤(明)・豊嶋 弥生例会 「北の魚つくし」 17名出席 (例会は奇数月第3金曜日18:30から)
4月		洛紫会(ゲリラ会) 例会の無い月は 幹事や各委員会委員長がメーリングリストを使い洛紫会を呼び掛けます 4月は歓送迎会に忙しい時期です (ゲリラ会:ゲリラ的に行うのでこの名前が付きました こちらに馴染みが深いのですが支部長から「品が無いので洛紫会と呼べ」と言われ 今では表向き「洛紫会」となっています)
5月	17日	皐月例会 お刺身居酒屋瑠玖にて開催 18名出席 幹事 平井
6月	2日	同立戦(札幌ベイゴルフクラブ) プレー費11000円 参加費1000円
	9日	同志社懇親会 ホテルニューオータニイン 校友会は女子大や各学校を含んでおります 総会と呼ばず「懇親会」と称し 集い易い雰囲気を醸し出すようにしています
	14日	函館碑前祭＆「新島襄・八重と函館」講演会＆新島襄と幕末の箱館展 ＊バス送迎します 参加費は昼食代と博物館入館料300円のみです
7月	14日	“DOSHISHA Camp in Hokkaido” アウトドアアドミティーが企画するキャンプです 今年は羊蹄山山麓で行います
	19日	文月例会 さかな屋金ちゃんの店「魚平」 会費3500円 幹事 澤田
8月	8日	第14回 関西六大学札幌OBゴルフ対抗戦(札幌ベイゴルフクラブ) 昨年は131名参加 同志社優勝(5回目)
9月	9日	月見例会 「北の魚つくし」 会費3500円 幹事 澤田 9月を旧暦表記すると長月です ホテルの立て看板に「同志社長月例会」と記載したところ 同志・社長月例会と読めてしまうので改名を指示されました
10月		三好杯争奪ゴルフコンペ 故三好支部長に敬意を表し秋にゴルフコンペを開催しております
11月	11日	関西六大学札幌OB懇親交流会 交流会は本年度の関西六大学対抗戦優勝校が幹事をします 当月は樹徳会総会 小樽クラブ総会の開催月です
12月	15日	クリスマス会 第2土曜・日曜日にクリスマス会を開催しています 会員家族約120名出席の大パーティーです 瘦ッチョのサンタや太ったトナカイが狭い会場を走り回り子供達にプレゼントを配ります

<http://doshisha-sapporo.org>

行事予定の詳細はホームページに最新情報を掲載しております、確認をお願いします。